

ウッドフレンズほかに供給

国産材の活用進む

フォレストノート

ウッドフレンズ(名子会社のフォレストノート)は、岐阜市、林知秀社長。ノート(同、加藤猛雄社長)は、岐阜工場(岐阜県養老郡)で構造用集成材ほかを生産している。国産材を使用した戸建て住宅で差別化を図るウッドフレンズ向けの供給が主だが、地域内外のビルダーやプレカット工場に、

も販売。直近の構造用集成材の生産量は、月間1650立方メートルだ。同工場は住宅生産の工業化とコスト削減の両立を図るべく、ウッド

フレンズが2011年に設置した。現在はフォレストノートが運営しており、構造用集成材のほか、羽柄材、壁パネルの生

造住宅は昨年、構造材(柱、土台、梁・桁、壁パネル)における国産材使用比率が85%に達した。柱は杉集成材、土台はムクゲ、梁

面を生産しており、比率は中断面が74%、小断面が26%。同社

住宅販売棟数の増加(22年5月期11月中間時点

で531戸)に異に

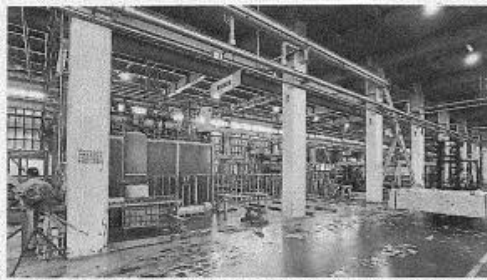
加え、合板用材の

比率が上昇して

おり、現在はその

断面の60%、少

題に挙げている。



岐阜工場中で、小断面の構造用集成材を生産する

の安定確保を今後の課題に挙げている。